

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2003-180188
(P2003-180188A)

(43) 公開日 平成15年7月2日 (2003.7.2)

(51) Int.Cl.⁷
A 0 1 K 13/00
B 2 4 D 15/02

識別記号

F I
A 0 1 K 13/00
B 2 4 D 15/02

テームト* (参考)
G 3 C 0 6 3
Z

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2001-387026(P2001-387026)

(22) 出願日 平成13年12月20日 (2001. 12. 20)

(71) 出願人 598074195

株式会社ベテイトラスト

東京都品川区南大井 6-17-7 正栄ビル
2 F

(72) 発明者 石川 弘剛

東京都品川区南大井 6-17-7 正栄ビル
2 F 株式会社ベテイトラスト内

(74) 代理人 100075731

弁理士 大浜 博

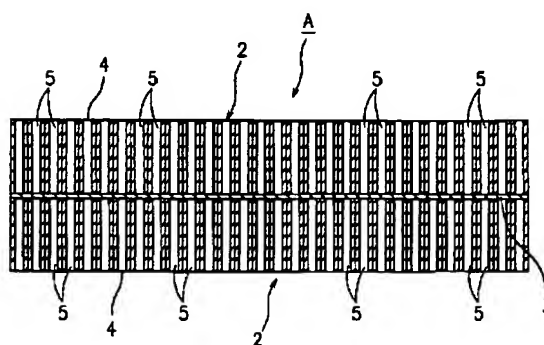
Fターム(参考) 3C063 AB10 BA22 BA31 BC01 BH14
EE40

(54) 【発明の名称】 猫の爪研ぎ器

(57) 【要約】

【課題】 従来の段ボール紙製の研磨体を用いた猫用爪研ぎ器では、爪研ぎ面を猫が爪で引っ掻いたときに発生する紙粉が研磨体の小孔を通して爪研ぎ器下面に達する（床面を汚す）ので、研磨体を収容箱に入れて使用していた。

【解決手段】 段ボール紙を縦向き姿勢で積層して上下に貫通する多数の小孔5を有してなる2つの研磨体2、2と仕切り材3を用い、各研磨体2、2を仕切り材3の表裏各面に接合させた状態で該各研磨体2、2と仕切り材3とを一体化させていることにより、爪研ぎ面を猫が爪で引っ掻いたときに発生する紙粉が上側研磨体の小孔内に落ち込んでも、該紙粉を仕切り材3部分で受け止めることができ、爪研ぎ器下面の床面が紙粉で汚れなくなる。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 段ボール紙を縦向き姿勢で積層して上下に貫通する多数の小孔(5, 5...)を有してなる2つの研磨体(2, 2)と、該研磨体(2)と同面積の仕切り材(3)とを用い、

前記各研磨体(2, 2)の小孔形成端面を前記仕切り材(3)の表裏各面に接合させた状態で該各研磨体(2, 2)と仕切り材(3)とを一体化させた、

ことを特徴とする猫の爪研ぎ器。

【請求項2】 請求項1において、

各研磨体(2, 2)の各爪研ぎ面(4, 4)の外周縁に、各爪研ぎ面(4, 4)よりそれぞれ所定の小高さだけ研磨体厚さ方向の外方に突出する環状のガード壁(7, 7)を設けた、

ことを特徴とする猫の爪研ぎ器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本願発明は、段ボール紙を積層してなる研磨体を用いた猫の爪研ぎ器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】猫の爪研ぎ器として、従来から図6～図7に示すようなものがある。この従来例の爪研ぎ器Zは、段ボール紙製の研磨体2と、該研磨体2を収容する収容箱10とで構成されている。そして、この爪研ぎ器Zは、図7に示すように研磨体2を収容箱10内に収容して、該研磨体2を猫の爪研ぎに供する。尚、研磨体2は、表裏両面を爪研ぎ面4, 4として利用できるようになっており、表面側の爪研ぎ面4を使い終えると該研磨体2を裏返しで使用できる。

【0003】ところで、段ボール紙製の研磨体2は、多数枚の段ボール紙を縦向き姿勢で積層して、所定面積の厚板状に成形しているが、このように段ボール紙製の研磨体2では、図7に示すように、段ボール紙の波形襷からなる多数の小孔5, 5...が上下に貫通している。そして、段ボール紙製の研磨体2では、猫が表面(爪研ぎ面4)を爪で引っ掻くと、該爪研ぎ面4から段ボール紙の屑(以下、この屑を紙粉という)が発生し、該紙粉が各小孔5, 5...を通過して研磨体2の下面まで落下する。

【0004】このように、段ボール紙製の研磨体2を用いた爪研ぎ器では、爪研ぎ面4から発生した紙粉が小孔5, 5...を通過して研磨体下面まで落下するので、そのままでは爪研ぎ器設置場所の床面が紙粉で汚れるために、従来では研磨体2を収容箱10に入れて使用している。尚、収容箱10としては、プラスチック製で繰り返し利用できるもの(研磨体2のみを取り替える)や、研磨体2の包装材となる紙箱製で研磨体2とともに使い捨てられるもの等がある。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】ところが、図6～図7に示す従来の爪研ぎ器では、上記のように研磨体2の表面(爪研ぎ面4)から発生する紙粉が研磨体2の小孔5, 5...を通過して研磨体下面まで落下するので、床面を紙粉で汚さないようにするためには研磨体2を収容箱10に収容した状態で使用する必要がある。

【0006】その場合、プラスチック製の収容箱10では、繰り返し使用可能であるが、最初の購入費が高いという問題があるほか、次に研磨体2のみを購入する場合に従前から使用している収容箱10のサイズ(入れ替え用の研磨体2はメーカーごとにサイズが異なることが多い)に適合するものを捜するのが面倒であり、しかもときには勘違い等で収容箱10のサイズに適合しない研磨体を購入してしまうことがあった(その場合、販売店に交換に持って行くのが面倒である)。

【0007】又、収容箱として包装用の紙箱を利用するものでは、該収容箱が研磨体2と一体に販売されるので購入及び使用に便利であるが、包装材を収容箱として機能させる必要性から該包装材の構造が複雑になって爪研ぎ器全体のコストが高くなるという問題があった。

【0008】本願発明は、上記の問題点を鑑み、段ボール紙製の研磨体を用いた猫の爪研ぎ器において、紙粉受け用の収容箱を省略し得るようにすることを目的とするものである。

【0009】

【課題を解決するための手段】本願発明は、上記課題を解決するための手段として次の構成を有している。尚、本願の各発明は、段ボール紙製の研磨体を用いた猫の爪研ぎ器を対象にしている。

30 本願請求項1の発明

本願請求項1の発明の猫の爪研ぎ器は、段ボール紙を縦向き姿勢で積層して上下に貫通する多数の小孔を有してなる2つの研磨体と、該研磨体と同面積の仕切り材を用い、各研磨体の小孔形成端面を仕切り材の表裏各面に接合させた状態で各研磨体と仕切り材とを一体化させて構成している。

【0010】2つの研磨体には、それぞれ段ボール紙の襷材(波形材)により上下に貫通する多数の小孔が形成されている。

40 【0011】研磨体としては、一般に平面視長方形のものが多用されているが、本願の爪研ぎ器では、平面視長方形の外に円形その他適宜の形状のものも採用できる。又、この種の爪研ぎ器の厚さは、一般に30～40mm程度であるが、本願では、2つの研磨体を接合させている関係で、1つ当たりの研磨体の厚さを15～20mm程度に設定している。尚、各研磨体の厚さは、特に限定するのではなく、適宜に設計変更できる。

50 【0012】仕切り材としては、プラスチックフィルムや紙等の極薄シート、あるいはボール紙のような薄板材等が使用可能である。この仕切り材は、研磨体の平面形

状と同形状で同面積の大きさを有している。

【0013】そして、2つの研磨体は、仕切り材の表裏各面に接合させた状態で一体化させているが、この請求項1の爪研ぎ器では、各研磨体を仕切り材の表裏各面にそれぞれ接着剤で接着することによって一体化させることができる。

【0014】この請求項1の爪研ぎ器では、表裏各面（各研磨体の外面）にそれぞれ爪研ぎ面を有していて、いずれか一方の爪研ぎ面を上にして直接床面等の上に置いて使用する。そして、猫が爪研ぎ器の上面側爪研ぎ面を爪で引っ掻くと、該爪研ぎ面から紙粉が発生するが、その紙粉の大部分の量は上側研磨体の各小孔内に落ち込むようになる。ところで、この請求項1の爪研ぎ器には、上下の研磨体間に仕切り材が介設されているので、上下の研磨体の各小孔は仕切り材で遮断されており、上面側の爪研ぎ面で発生する紙粉が上側研磨体の小孔内に落ち込んでも、該紙粉が仕切り材部分で受け止められて下側研磨体の小孔内に侵入することはない。従って、爪研ぎ面から発生する紙粉が上側研磨体の小孔内に落ち込んでも、該紙粉が爪研ぎ器の下面側に達することがなく、該紙粉で床面を汚さなくなる。

【0015】又、上面側の爪研ぎ面が目詰まりすると、裏面（未使用）の爪研ぎ面を使用することができるが、そのときには、爪研ぎ器の使用済み面を新聞紙等の敷物の上（あるいは屋外）で裏返して上から数回軽く叩き、爪研ぎ面に付着している紙粉や小孔内に侵入している紙粉を除去した後、未使用の爪研ぎ面を上にして使用すればよい。尚、この猫用爪研ぎ器は、表裏両面の爪研ぎ面の使用が終わればそのまま可燃ゴミとして廃棄できる。

本願請求項2の発明

本願請求項2の発明は、上記請求項1の猫の爪研ぎ器において、各研磨体の各爪研ぎ面の外周縁に、各爪研ぎ面よりそれぞれ所定の小高さだけ研磨体厚さ方向の外方に突出する環状のガード壁を設けている。

【0016】この各ガード壁の突出高さは、例えば爪研ぎ面からそれぞれ5～10mm程度でよい。又、この上下のガード壁は、爪研ぎ器本体の外側面を囲繞する1枚ものの帯状体で形成するとよいが、上下個別（2分割したもの）に取付けることもできる。尚、このガード壁は、爪研ぎ器本体の外周面に接着剤で接着させることができる。

【0017】この種の爪研ぎ器では、猫が爪研ぎ面を爪で引っ掻くと、掻き取られた紙粉の一部が爪研ぎ面の外方に飛散することがあるが、本願請求項2のように爪研ぎ面の外周縁にガード壁を設けておくと、収容箱を用いない爪研ぎ器であっても、該ガード壁で爪研ぎ面から発生する紙粉が外部に飛散するのを防衛できる。

【0018】

【発明の実施の形態】図1～図5を参照して本願実施形態を説明すると、図1～図2には第1実施形態、図3～

図4には第2実施形態、図5には第3実施形態の猫用爪研ぎ器が示されている。尚、図1～図2の第1実施形態は本願請求項1のみに対応する爪研ぎ器であり、図3～図4の第2実施形態及び図5の第3実施形態は本願請求項1及び本願請求項2に対応する爪研ぎ器である。

【0019】図1～図2に示す第1実施形態の爪研ぎ器Aは、多数枚の段ボール紙を縦向き姿勢で積層してなる2つの研磨体2、2間に仕切り材3を介在させた状態で、該各研磨体2、2と仕切り材3とを一体化させて構成している。

【0020】この第1実施形態の爪研ぎ器Aは、一方に長い長方形で全体厚さが30～40mm程度に設定している。従って、各研磨体2、2は、それぞれ15～20mm程度の厚さのものを使用している。

【0021】各研磨体2、2は、それぞれ多数枚の段ボール紙を縦向き姿勢で積層したものを使用しているので、各研磨体2、2には、段ボール紙の裏材（波形材）により上下に貫通する多数の小孔5、5・・・が形成されている。

【0022】仕切り材3としては、プラスチックフィルムや紙等の極薄シート、あるいはボール紙のような薄板材等が使用可能である。この仕切り材3は、研磨体2の平面形状と同形状の大きさを有しているが、該仕切り材3は1枚ものでも複数枚に分割したもの（接合して研磨体2の平面形状と同形状にする）でもよい。

【0023】そして、第1実施形態の爪研ぎ器Aは、2つの研磨体2、2を仕切り材3の表裏各面に接着剤で接着させて一体化させている。従って、この爪研ぎ器Aには、上下両面に爪研ぎ面4、4を有している。

【0024】尚、研磨体2、2が段ボール紙のままの状態では、紙質が弱いために爪研ぎ面4を猫が爪で引っ掻いたときに紙粉が削られ易い（使用期間が短い）が、本願では、各爪研ぎ面4、4に合成樹脂を含浸させて、該爪研ぎ面4、4を適度に硬化させてもよい。

【0025】図1～図2に示す第1実施形態の爪研ぎ器Aは、2つの研磨体2、2間に仕切り材3を介在させたという簡単な構成であるので、製作コストを非常に安価にできる。この第1実施形態の爪研ぎ器Aを使用するには、いずれか一方の爪研ぎ面4を上にしてそのまま床面等の上に置く。そして、猫が爪研ぎ器の上面（爪研ぎ面4）を爪で引っ掻くと、該爪研ぎ面4から紙粉が発生するが、その紙粉は上側研磨体2の各小孔5、5・・・内に落ち込み、該小孔5、5・・・内で仕切り材3によって受け止められる。従って、爪研ぎ面4から発生する紙粉が上側研磨体2の小孔5、5・・・内に落ち込んでも、該紙粉が爪研ぎ器の下面側に達することがない（下側研磨体2の小孔5、5・・・内に侵入しない）。

【0026】又、爪研ぎ面4を猫が何回も爪で引っ掻くと、上面側の小孔5、5・・・が目詰まりするが、該小孔5、5・・・がある程度目詰まりすると、裏面（未使用）

の爪研ぎ面4を使用する。そのとき、爪研ぎ器Aの使用済み面を新聞紙等の敷物の上(あるいは屋外)で裏返して上から数回軽く叩き、爪研ぎ面4に付着している紙粉や小孔5、5・・・内に侵入している紙粉を除去した後、未使用の爪研ぎ面4を上にして使用すればよい。尚、この爪研ぎ器Aは、表裏両面の爪研ぎ面4、4の使用が終われば可燃ゴミとして廃棄できる。

【0027】このように、第1実施形態の爪研ぎ器Aでは、収容箱が不要であるので、安価に製作できる。又、このように簡単な構造のものであっても、猫が爪研ぎ時に発生する紙粉を上側研磨体2の小孔5、5・・・内で貯留でき、爪研ぎ器下面の床面を該紙粉で汚さなくなる。

【0028】図3～図4に示す第2実施形態の爪研ぎ器Bは、図1～図2の第1実施形態の爪研ぎ器Aの外周面に環状の帯状体6を巻付けたものである。この帯状体6の上下各端縁は、上下の各爪研ぎ面4、4よりそれぞれ若干高さH(例えばH=5～10mm程度)づつ研磨体厚さ方向の外方に突出させており、該帯状体6の上下各突出部分をそれぞれ各爪研ぎ面4、4のガード壁7、7としている。この帯状体6は、例えばボール紙のような安価な材料を使用できる。又、この帯状体6は、爪研ぎ器本体1(2つの研磨体2、2と仕切り材3とで構成されている)の外周面に接着剤で接着させている。尚、帯状体6の内周面と爪研ぎ器本体1の外周面との間は、全周に亘って隙間なしに接合させている。

【0029】このガード壁7は、猫が爪研ぎ面4を爪で引っ掻いたときに発生する紙粉が爪研ぎ面4の外方に飛散するのを防止するためのものであり、このように爪研ぎ面4の外周縁にガード壁7を設けておくと、収容箱を用いない爪研ぎ器であっても、爪研ぎ面4から発生する紙粉が外部に飛散するのを防御できる。

【0030】図5に示す第3実施形態の爪研ぎ器Cは、平面視円形に成形している。即ち、この第3実施形態の爪研ぎ器Cでは、それぞれ円形の研磨体2、2間に同形の仕切り材3を介在させて爪研ぎ器本体1を形成する一方、該爪研ぎ器本体1の外周面に環状の帯状体6を取付けて構成している。

【0031】この研磨体2は、連続する細帯状の段ボール紙を渦巻き状に巻付けて円形に形成している。尚、この研磨体2の外径は、35～40cm程度が適当であるが、特に限定するものではない。

【0032】帯状体6の上下各端縁は、爪研ぎ器本体1の上下各爪研ぎ面4、4より所定小高さ(5～10mm程

度)だけ厚さ方向の外方に突出させており、該各突出部分を各爪研ぎ面4、4のガード壁7、7としている。

【0033】尚、この第3実施形態の爪研ぎ器Cのその他の構成は、上記第2実施形態のものと基本的に同じであり、機能も第2実施形態のものと同様である。

【0034】

【発明の効果】本願各発明の猫の爪研ぎ器は、次のような効果がある。

【0035】まず、本願請求項1の発明の爪研ぎ器は、段ボール紙製の2つの研磨体2、2を仕切り材3の表裏各面に接合させた状態で各研磨体2、2と仕切り材3とを一体化させているので、爪研ぎ面4を猫が爪で引っ掻いたときに発生する紙粉が研磨体2の小孔5、5・・・内に侵入しても、該紙粉を仕切り材3部分で受け止めることができ、従って、該紙粉で爪研ぎ器下面の床面を汚すことがなくなるという効果がある。又、本願請求項1の爪研ぎ器では、上記のように、爪研ぎ面4から発生する紙粉が小孔5を通して爪研ぎ器下面まで達することがないので、従来のように使用時に爪研ぎ器本体を収容する収容箱が不要になり、その分、コストダウンを図ることができるという効果もある。

【0036】本願請求項2の発明では、請求項1の爪研ぎ器において、各爪研ぎ面4、4の外周縁にそれぞれ環状のガード壁7、7を設けているので、該ガード壁7で爪研ぎ面4から発生する紙粉が外方に飛散するのを防御することができる。従って、本願請求項2の爪研ぎ器では、上記請求項1の効果に加えて、ガード壁7により爪研ぎ器設置位置の周囲が紙粉で汚れるのを防止できるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本願第1実施形態の猫用爪研ぎ器の斜視図である。

【図2】図1のII-II拡大断面図である。

【図3】本願第2実施形態の猫用爪研ぎ器の斜視図である。

【図4】図3のIV-IV拡大断面図である。

【図5】本願第3実施形態の猫用爪研ぎ器の斜視図である。

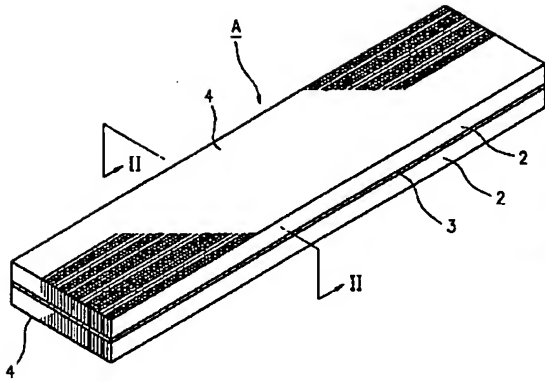
【図6】従来の猫用爪研ぎ器の斜視図である。

【図7】図6のVII-VII相当の拡大断面図である。

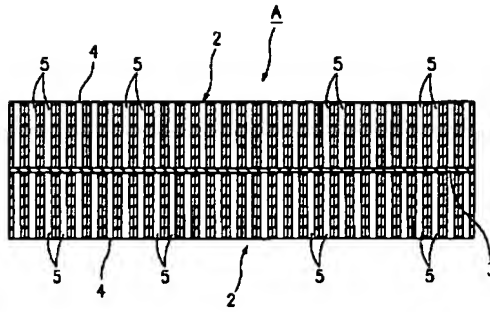
【符号の説明】

1は爪研ぎ器本体、2は研磨体、3は仕切り材、4は爪研ぎ面、5は小孔、6は帯状体、7はガード壁である。

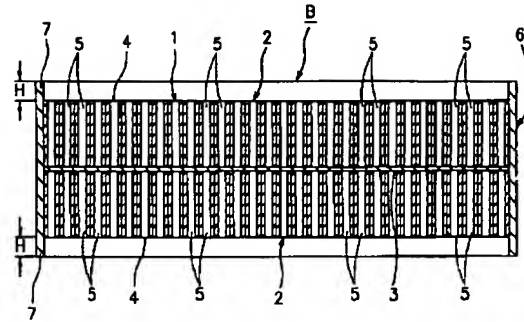
【図1】



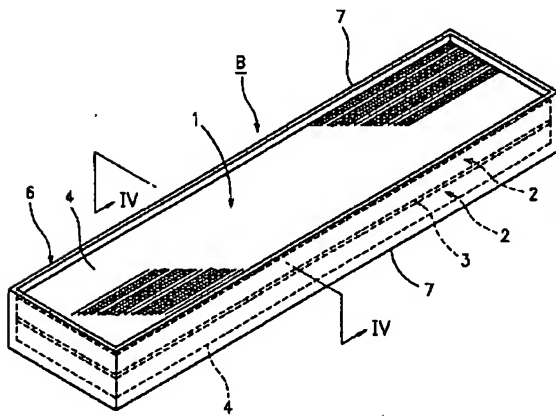
【図2】



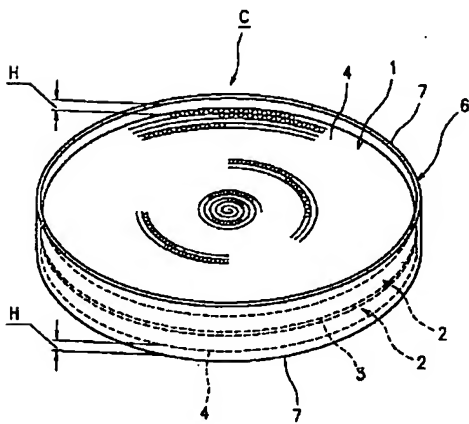
【図4】



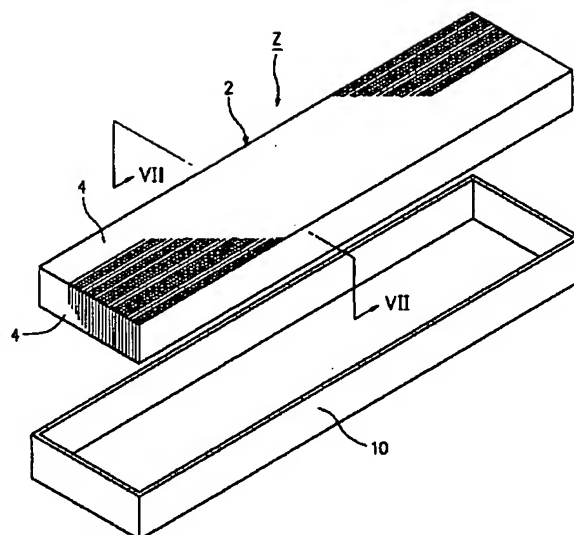
【図3】



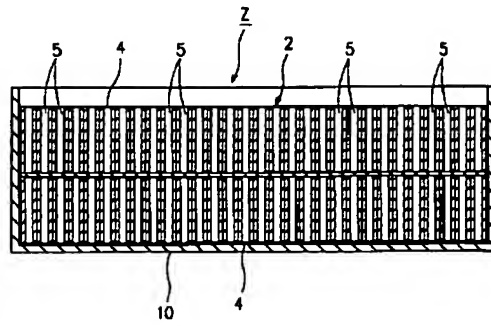
【図5】



【図6】



【図7】



PAT-NO: JP02003180188A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2003180188 A

TITLE: CAT NAIL SHARPENER

PUBN-DATE: July 2, 2003

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
ISHIKAWA, HIROTAKE	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
PETEI TRUST:KK	N/A

APPL-NO: JP2001387026

APPL-DATE: December 20, 2001

INT-CL (IPC): A01K013/00, B24D015/02

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a cat nail sharpener solving the problem that in a conventional cat nail sharpener using an abrasive element of corrugated paperboard, since paper dust generated when a cat scratches the nail sharpening surface with the nail reaches the underside of the sharpener through the small holes of the abrasive element (resulting in staining a floor surface), the element is used by containing it in a box.

SOLUTION: This cat nail sharpener has the following structure: using a partitioning material 3 and two abrasive elements 2 and 2 each of which is made by longitudinally laminating corrugated paperboards together so as to have many small vertical through holes 5, the partitioning material 3 and both the two elements 2 and 2 are integrated together is such a condition as to join the elements 2 and 2 to the obverse and reverse surfaces of the partitioning material 3, respectively. Thus, even if paper dust generated when a cat scratches the nail sharpening surface with the nail fall into the small holes of the upper abrasive element, the dust can be caught on the partitioning material 3, resulting in staining no floor surface on the underside of this sharpener with the dust.

COPYRIGHT: (C)2003,JP

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☒ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.